

2020年度 富山北部高等学校アクションプラン - 1 -

重点項目	学習活動	
重点課題	家庭学習習慣の確立と授業力の向上	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力が不足しており、加えて教科ごとの学力に不均衡が目立つ。 ・自己の進路に明確な目標を持つ時期が遅い。また、生徒の進路希望が幅広く多岐にわたっている。 ・予習復習を中心とした家庭での学習が習慣化されておらず、学習に対して取り組みが不十分である。 ・昨年度末の3月から5月まで休校となり、その間、学校での授業が行われていない。規則正しい生活と呼び掛けるとともに、学習課題をHPや郵送等で提示して取り組ませた。また、夏期休業を短縮し授業を行った。 	
達成目標	① 家庭学習習慣の確立 <ul style="list-style-type: none"> ・学習実態調査で家庭学習を2時間以上行う生徒の割合が70%以上。 	② 授業力向上 <ul style="list-style-type: none"> ・年間1回以上、互見授業に参加する。 ・ICTを活用した授業研究に取り組み、公開授業を実施する。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・記名式の調査を年間5回程度行い、学習・生活実態を把握する。また、調査結果を分析し、生徒面談、保護者会、学年集会等をとおして生徒の学習意欲を喚起するとともに、教科、学年、家庭と連携をとりながら効果的な方策をたてる。 ・日々の課題、週末課題、小テスト、長期に及ぶ課題、休業中の学習課題などを工夫しながらバランスよく課すことで家庭学習習慣の確立と学習意欲の喚起を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・互見授業期間を1学期中間考査後と、2学期中間考査後に設定し、授業力向上、授業改善に努める。各自1回以上、互見授業を実施または参観することとする。 ・各教科で指定授業を設定し、実施後は検討会を行う。 ・生徒へのICTを活用した課題提示の内容や方法等について工夫している点を相互に学び合い、各自のスキル向上を図る。
評 価	A	B
	<ul style="list-style-type: none"> ・現在までの3回の調査で、家庭学習時間2時間以上と答えた生徒は83.5%であった。昨年度の66.2%から17ポイント余り増加した。コロナ禍での外出時間等の減少、および規則正しい生活習慣の保持や家庭学習時間の充実が呼び掛けられた等により増加したのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回、第2回の互見授業では授業を参観、または実施した回数は一人当たり1.2回超であった。コロナ禍でICT活用技能の習得がより切実なものとなった。 ・情報教育部主催のICT研修4回と校内研修授業2回が実施され、それぞれ20名程度の参加があった。コロナにより授業が校外に公開できなかったが、教科部会では率直な意見交換ができ、活用のノウハウが共有できた。
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中でも、学習活動が充実したものになるよう、課題の提示・回収やオンライン授業の整備等に努めてほしい。 ・タブレットが1人に1台の体制で整備されることを念頭に置いて、ICT活用技能の研鑽を引き続きお願いしたい。 ・家庭学習時間の増加は、規則正しい生活習慣と学習時間の充実の結果であろう。今後も引き続き学習実態調査の分析を行い、家庭学習習慣の充実にしっかりと取り組んでほしい。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も定期的に学習時間実態調査を行い、実態把握に努めるとともに、調査結果を分析し、面談、保護者会、教科部会、学年会等で方策をたて、継続的かつ効果的な指導を行い、学習意欲の喚起に努める。 ・家庭学習習慣の確立に向けて、日々の課題、週末課題など質・量をさらに検討し指導・支援していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標は達成しているが、日々進化するICT機器に対応し利用していくためにも、今後の日々の研鑽が大切である。 ・ICT機器を有効に活用した授業や、グループ学習など授業改善に努めている教員は増えている。授業力の向上のため、今後も継続していかなければならない。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

2020年度 富山北部高等学校アクションプラン - 2 -

重点項目	学校生活	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な生活習慣の定着および「自覚と責任」を持たせる生徒指導の充実 ・ 思春期のライフスキルの育成 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な生活習慣、交通安全・マナーが身につけていない生徒が見られる。 ・ SNS等の適切な利用、正しい知識が不足している生徒が見られる。 ・ 規範意識の希薄な面があり、「自ら律する」指導を充実させる必要がある。 ・ 校内で清掃が行き届いていないところがある。 ・ より良い人間関係を築くためのコミュニケーション能力や言語能力が不足している生徒が見られる。また、カウンセリング技法やクラスづくりの指導法などについて、教員同士の交流や研修を行う必要がある。 	
達成目標	① 登校指導、頭髪・服装指導の充実	② 清掃の強化 ③ コミュニケーション能力の育成向上
	1日遅刻平均0.5人を下回る。 (但し、通院による遅刻を除く)	学校が綺麗になったと感じる生徒やコミュニケーションがうまくとれていると感じている生徒の割合が80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な生活習慣の定着、交通安全意識・マナー、規範意識の向上を目指し全職員一丸となり、登校指導、昼の校内外巡視、頭髪服装指導を実施する。 ・ スマートフォン・インターネット安全教室や交通安全講話を実施する。 ・ あらゆる教育活動を通じて、「自ら律する」姿勢を育て、「自覚と責任」を持たせるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月一回程度、保健委員による清掃チェックを行い、その結果を発表する機会を設けるなどして、清掃に対する意識を高める。 ・ 各学年や関係機関と連携を密にしながら、個別カウンセリングを継続的に実施し、生徒の心身の健康を保持する。 ・ クラス内の人間関係づくりについて、教職員のスキルアップを図るために、カウンセリング技法などの交流・研修の機会を設ける。
評 価	D	C
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 登校指導、昼巡視、頭髪服装指導は大雪などの自然災害時以外は予定通り実施した。 ・ 昼巡視では残念ながら、いまだに数名携帯電話を操作している生徒がいた。 ・ 頭髪服装指導では、一部ルールを守れない生徒もいるが、粘り強い指導により違反者は減少傾向にある。 ・ 遅刻の回数に関して277回。(2,2人)昨年度の162回を大きく上回った。特に体調不良の数が増加した。 ・ コロナの影響もあり、交通安全講話(1年生対象)しか実施できなかった。 ・ 残念ながら登校時の歩行、自転車、車での送迎マナーが守られず、地域の方々に迷惑をかけることがあった。 ・ 「自ら律する」、「自覚と責任」に関しての指導はまだ道半ばである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 清掃の強化を保健委員会の重点活動として実施予定であったが、新型コロナウイルス感染防止の対応に追われ、実施が難しかった。 ・ 本校にある清掃用具には古いものも多く、更新の要望が多く寄せられていた。そこで、まずは清掃に取り組む意欲を高めるために、各場所の清掃用具の実態調査を行い、その更新を実施した。 ・ 新型コロナウイルス感染防止対策の予算から、トイレの手洗い場の自動水栓化や個室トイレ内に消毒液等の設置のための棚の整備を行った。 ・ 生徒間のコミュニケーションについては、アンケートによると95%がうまくいっていると感じている。
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間を守ることは社会に出ていくうえでかなり重要なことなので、しっかりと高校時代に指導していただきたい。 ・ 登下校のマナー、送迎マナーなどを機会があるごとに周知徹底を図ることが大切。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 清掃活動の活性化には、新たに校内美化委員会を組織して行う方法もある。 ・ 生徒の手指の消毒については、ルール作りをして指導をしてはどうか。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「自ら律する」、「自覚と責任」の指導を徹底。 ・ 遅刻回数の減少。 ・ 登下校時の歩行、自転車などの交通安全意識の向上。 	現状で清掃活動の強化を保健委員会の活動とすることは、保健委員の負担が大きくなるので、新たに清掃の委員会を作るか、または生徒会企画の校内美化活動として実施するか協議する必要がある。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

2020年度 富山北部高等学校アクションプラン - 3 -

重点項目	進路支援	
重点課題	進路意識の向上と進路実現に向けた進路指導	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 自己や社会に対する認識が不十分である。 将来の職業や生き方について考え、今は何をすべきか先を見通して実践することが難しい。 進路目標達成のため、学習時間や学習量を確保できない生徒が多い。 	
達成目標	①進学 進路指導に対する満足度	②就職 進路指導に対する満足度
	90%	90%
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 個々の生徒の適性や能力を詳細に把握するとともに、生徒自身にも自覚を持たせる。 将来設計に基づいた進路指導を行い、的確な進路情報の提供や生徒の学力分析、教員との面談を実施する。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 進学ガイダンス・学校見学・進路調査・講演会等を通して、進路目標を早期に設定させる。 教科補習、外部模試等を通して、学力の向上を各分掌と連携して継続的に実施する。 担任を中心とした個別面接を通して進路指導を行うと同時に、全教員で面接指導や小論文指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 就職ガイダンス・学習会を実施し、自己の興味・関心や能力・適性の理解に努め、職業意識を高める。 就職試験の準備に早期に取り組むと同時に、内定後も職業人としての意識を高めるよう指導する。 教師の会社訪問を通して、卒業生の状況や求人情報の収集に努める。
評 価	A	A
	<ul style="list-style-type: none"> 進学指導においては、新型コロナウイルスの影響により、中止された行事が多くあった。進路希望調査、補習、面接指導等は予定通り行った。 1月21日、3年生に「進路指導に関するアンケート」を実施した。 進学希望 127名のうち 117名より回答があった。良かった45名、おおむね良かった64名、あまり良くなかった7名、良くなかった1名で、93%の生徒が満足していると回答した。 	<ul style="list-style-type: none"> 就職指導においては、休校期間もあったため、重要度の高い研修会等を中心に行った。2月8、17日には高校最後の研修会として「社会人としての心構え」をテーマに実施する。 「進路指導に関するアンケート」では、就職内定者31名のうち、良かった15名、おおむね良かった15名、あまり良くなかった1名で、97%の生徒が満足していると回答している。
	進路指導の満足度調査(令和3年1月21日 実施) R2年度 95%が「とても良かった」、「良かった」である。 <参考> R1 92% H30 95% H29 95% H28 98% H27 95% H26 97% H25 92% H24 76% H23 81% H22 81% H21 82% H20 67%	
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響について、就職では求人数が昨年と比較して減少した。今後どのような影響があったのか、または予想されるのか注意していく必要がある。 離職率については、離職する者がほとんどいないとのこと、学校指定で専門性を生かせる求人が多いのはありがたいことである。 	
次年度へ向けての課題	小論文、面接、個別学習指導等の個別指導において、「とても良かった」「良かった」という意見が多く満足度が高かった。また、今年は例年と比較して補習の満足度が高かった。多様化する試験方法に対応するために、教員全体が進学指導に力を入れていく必要があると考える。	全体での研修会がなかなか実施できなかったため、面接指導、履歴書指導等の個別指導を中心に本年は研修を行ってきた。これらの満足度は高い。限られた時間の中で指導を行うための、質を保証した指導方法を更に考えていく必要がある。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

2020年度 富山北部高等学校アクションプラン - 4 -

重点項目	特別活動	
重点課題	諸活動を通じ、自ら考え、自ら行動する姿勢の育成。	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・興味関心や自分に責任があることには積極的に行動するが、周囲のためになる自発的な行動、愛校心や学校をより良くしていこうという意識には、物足りなさを感じる。 ・地域のことについて興味が薄いので、地域での活動に参加を促す。 ・課題解決に本を利用するなどの読書習慣が充分身につけていない。 ・昨年度の一人あたり貸し出し冊数 3.40 冊（1月末）は前年同期比で 0.21 ポイント増。 	
達成目標	①生徒会行事満足度	②一人あたり貸し出し数
	90%以上	3.50 冊
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・各種行事において、生徒会を中心に一般生徒が積極的に参加できる体制を作り、責任感を持って活動できるよう配慮する。 ・学校行事を通して愛校心を育むよう工夫する。 ・集会時の整列を自分達で行い自立を促す。 ・学校主催のボランティア活動をより自主性を持って参加させ、地域の一員であるという意識を持たせる。 ・地域の行事等に部活動の一環として協力するなど、地域の諸活への参加を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科との連携を深め、課題解決学習での図書の利用、進路に関わる図書の利用等図書部のレファレンス機能を向上させる。 ・映画、TV等のメディア情報を取り入れる等生徒の興味関心を調査し応えていくことで読書への関心を高める。 ・校内の広報活動の充実や読書環境の整備を積極的に行い魅力ある図書館づくりに努める。図書委員会の活動を充実させ、イベント企画を工夫し参加しやすいものにするなど、一般生徒が図書館に足を運ぶ機会を増やす。
評 価	B	D
	<ul style="list-style-type: none"> ・体育大会においては、コロナ対策という厳しい制限の中、工夫を重ね何度も教員と生徒が相談を重ねた結果、春の体育大会を9月上旬に延期し、新種目も好評を得て成功裏に終了することができた。 体育大会満足度 90% (昨年度 80%) 文化活動発表会満足度 79% (昨年度 %) ・コロナの感染防止対策の関係で、全校集会は行えず、自発的な整列意識は育まれなかったが、新校章の発案など愛校心を育てる事ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本の貸出冊数は、1月29日で1238冊（1857冊）生徒在籍数は1クラス増。 ・一人あたり 2.09 冊（3.40 冊） 1年生 523 冊（689 冊） / 239 人（199 人） 2年生 231 冊（604 冊） / 194 人（159 人） 3年生 484 冊（564 冊） / 158 人（188 人） *（ ）は昨年度 ・コロナ禍の休校期間、読書の時間などの行事縮小の影響もあったが貸出冊数は減少した。
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・他の学校ではコロナ禍で行事が中止、縮小する中で、体育大会を成功させたことは素晴らしい。 ・3年に一度の文化祭が、規模を縮小し、文化活動発表会となったことはやむを得ない。その中で、全校生徒が参加した芸術鑑賞会を工夫して行ったことは評価できる。 ・今後もなるだけ学校行事を中止するのではなく、工夫して実施してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書籍離れの対応として、電子書籍の活用などについて検討してはどうか。 ・活字離れの対応について、読みやすい知的な内容を含んだ漫画等を取り入れてはどうか。 ・在宅時間の増加に伴い、家庭生活アンケートを実施してはどうか。読書時間・冊数の変化やパソコン・スマホ・タブレット等の利用状況を調査し、これからの読書指導に生かしてはどうか。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナが収まりきらない現状においては、感染対策を十分に行いながらの新たな工夫を重ねていかねばならず、本年度を基礎にして生徒の支持が得られる行事にしてゆきたい。 ・ボランティア活動は可能な限り地域住民の理解を得ながらすすめてゆきたい。 ・集会の整列など、自発的な行動は1年休止したが粘り強く指導してゆきたい。 	<p>貸出冊数を増やす前にまずは図書館を利用する生徒数を増やすことが課題である。ホームルーム、総合、課題研究など教員指導の下、図書館を利用する生徒はいるが、自ら課題を持ち、課題解決のため図書館に立ち寄るといった生徒はまだまだ少ない。読書会など図書委員会の活動は好評であったが、さらに一般生徒に関心の輪を広げ、来館につなげることも次年度に向けての課題である。</p>

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

2020年度 富山北部高等学校アクションプラン - 5 -

重点項目	その他	
重点課題	学校、保護者、社会における相互の協力と情報共有の促進	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 育友会の活動があまり周知されていないとする指摘が若干の会員から寄せられた。 ・ 多くの家庭で共働きやパートなどによる生計の維持が見られ、また他校のPTA役員を兼ねている家庭もあることから、活動を負担と感じている保護者が多い。 	
達成目標	①行事や活動への満足度	②PTA会報『いくゆう』の閲覧
	全会員の80%以上	全会員の90%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者の負担感を少なくするような育友会活動にしていく必要がある。情報伝達の方法や会議の運営の仕方など、育友会会長や各委員会委員長と緊密に連携し、効果的な育友会活動を行っていく。 ・ 『いくゆう』は読みやすい誌面を工夫し、会員に直接手交する。 	
評 価	C	A
	<p>コロナ禍で、総会・各委員会の開催そのものが困難であったため、交流する場は限られてしまった。『育友会大学訪問』を10月8日になんとか開催することができ、その参加者の満足度は高かった。しかし、全体的には会員の多くの方が満足できる活動ができなかった。</p>	<p>PTA会報『いくゆう』123号・8月3日発行について、1学期の保護者懇談会において、担任・学年を通じて各保護者に直接手交した。保護者会に参加された保護者は、保護者会当日・別日いずれかに、全員が出席されていたので、全会員の90%以上は達成されたと考える。</p>
学校評議員の意見	<p>育友会会員にも、アクションプランの項目について、共有し理解し合うことは大切だ。また、今後達成が難しい目標設定とならないよう検討をお願いします。</p>	
次年度へ向けての課題	<p>育友会活動を負担と感じている保護者が多く、継続して役員になっていただける方が、次年度に向けてどれだけおられるのか不安である。また、特色あるPTA活動の企画に参加される人数が伸び悩んでいる。どのような声かけが効果的なのか模索が必要である。</p>	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)